

令和7年度 国語科「実用国語（選択科目）」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	園芸・自動車・情報処理科 3年 A・B・C組
教科書	国語表現（大修館書店）	副教材等	担当者による自作プリント

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 「言語文化」及び「現代の国語」で身に付けた知識や技能を基礎として、より実社会に即した国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉が持つ価値への認識を高めるとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	<p>・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けること。</p>	言葉に 出会う	言葉と表記	文章を書くための基礎を養う。誤りがなく読みやすい文章を書くことで、他者へ伝える力を身に付ける。	言葉・表現への関心を深め、わかりやすい文を書くための技術を理解できたか、プリント等で確認する。
			整った文を書く	主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解する。	
5	<p>・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること</p>		相手に応じた言葉遣い	和語・漢語・外来語のニュアンスの違いや、話し言葉と書き言葉、敬語の種類などについての理解を深める。	
			わかりやすい文を書く	長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解する。	
			文のつなぎ方	接続詞を的確に使用し、文脈を論理的につなぐ方法を学ぶ。絵や写真を説明できるようにする。	
6	<p>・目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にすること</p>	自己P Rと面 接①	自分を見つめて	経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。	今後の進路を考えた上で、自分がどのような人間なのかを表現できたか、プリント等で確認する。
			効果的な自己PR	自分の長所を端的に表現した、印象に残るキャッチフレーズを作る。事実やできごとをふまえて、効果的な自己PRをする。	
			将来の自分を考えよう	就きたい職業に就くために必要なことを調べる。調べたことをふまえて、「将来の自分」について文章にまとめる。	
			志望動機理由を書こう	志望先について十分な情報を集める。調べたこと、やりたいこと、自己PRの三つを結びつけ、説得力のある志望動機を書く。	
7	<p>・読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫すること。</p>	書いて 伝える	小論文・レポート入門	小論文とはどういうもので、表現上どういうことが大切なのかを理解する。対立する立場を想定し、強い説得力をもたせる。	筋道を立てて文章が書けているか、プリント等を通して確認する。
			期末考査		

9 1 0 1 1 1 2	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫すること。 	自己PRと面接②	面接にチャレンジ	面接でのマナーを学び、質問に対しての具体的な答え方を身につける。	面接のマナーや正しい言葉遣いが身についたか、実践練習やプリント等で確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めること。 		通信文を書き分ける	さまざまな通信文の形式を理解する。相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。	相手や目的に応じた文章表現や言葉遣いを理解できたか、ノート・感想等を通して確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解すること。 	メディアを駆使する	ネット社会とコミュニケーション	ネットを用いたコミュニケーションの特長と使用する上での留意点を理解する。電子メールを活用する上でのエチケットを理解する。	ネットを使ったコミュニケーションについて理解できたか。メディアの種類を知り、活用できたか、プリント等を通じて確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。 相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫すること。 	読書の広場	読書への誘い	「宝探してみたいに本の世界へ入っていく」(芦田愛菜)と「想像力の世界」(金原瑞人)を扱い、読書についての理解を深める。	文章の意味を的確に理解できたか、また、読書の意義と効用を把握できたか、ノートやプリント、感想文等を通して確認する。
1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> 自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。 	表現を楽しむ	演説合戦にチャレンジ	相手や場面に応じた話し方を学ぶ。ディベートの基本的なルールを学び、集団で議論を重ねる。	合理性が伝わるように話の構成や展開が工夫できているか、発表や感想文等を通して確認する。

3 評価の観点

知識・技能	「言語文化」及び「現代の国語」で身に付けた知識や技能を基礎として、より実社会に即した国語の知識や技能を身に付けている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を高めるとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から、評価規準に従い総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ

毎時間の板書内容のノートへの書き取りを忘れない、怠らない。ノート提出及び点検があるので、それに備えておく。プリントや課題の提出をおろそかにしない。議論で意見発表を積極的に行う。以上が十分にできれば、単位修得の可能性は高い。